

参考情報

●地震の種類

- ・海溝型地震：地震の規模が大きい、揺れが長い、津波が発生する恐れがある
- ・直下型地震：地震の規模は小さいが震源が浅いと大きな揺れが起こる。

●いままでに日本で起きた自然災害

- ・東日本大震災（海溝型地震）：死者約 18,000 名、行方不明者約 2,800 名
- ・阪神・淡路大震災（直下型地震）：死者約 6,400 名、負傷者約 43,000 名
- ・平成 30 年 7 月豪雨：死者約 200 名、家屋の全半壊約 20,000 棟

※阪神・淡路大震災では、7割弱が家族も含む「自助」、3割が隣人等の「共助」により救出されており、「公助」である公的機関による救出は1割程度に過ぎませんでした。

●これから先、大阪に被害が及ぶと予想されている巨大地震

- ・南海トラフ巨大地震：30 年以内に 70%：死者 12 万人（大部分が津波による死者）
- ・上町断層帯地震：30 年以内に 2～3 % 大阪市内の最大震度 7：死者 8,500 人

●1日前プロジェクト（内閣府）

「災害の一日前に戻れるとなったら、あなたは何をしますか」と、地震や水害などの被害に遭われた方々に問い合わせ、小さなエピソードに取りまとめたものです。これらのエピソードとともに、「自分だったらどうするか」など、意見を交換することも、災害への気づきを呼び起こすうえで有効です。

施設情報

開館時間：午前 10 時～午後 6 時

休館日：水曜日・毎月最終木曜日（祝日の場合はその翌日）

入場料：無料

場所：大阪市阿倍野区阿倍野筋 3 丁目 13 番 23 号 あべのフォルサ 3F

ご予約：06-6643-1031

お問合せ：電話受付時間 午前 10 時～午後 5 時 45 分まで（休館日は除く）



あべのタスカル



阿倍野防災センター 学習用ワークシート

あべのタスカルで防災学習をしよう！

— 阿倍野防災センターでの学習を検討されている先生方へ —



いつ起こるかわからない災害に対して、学習し備えることは大切なことです。

災害時には青少年のチカラは地域にとって大きなものになります。

子供たちにとって有意義な学習機会になるよう、ご来館お待ちしております。

また、このワークシートを資料としてご活用いただくことで、

先生方のサポートとなれば幸いです。

指導マニュアル（例）

学習のめあて

- ・あべのタスカルでの学習をきっかけに、来館前と来館後に防災について考える機会を作ることができる。
- ・事前学習で分からなかったことや気づけなかったことを、あべのタスカルで災害を疑似体験することや、館内スタッフに質問することでたくさん発見することができる。
- ・あべのタスカルでの体験を通じて、自宅・学校・職場の環境において災害対策や避難する際の行動を考えることができる。

学習計画

- (1) 災害を知って今の自分にできることを考えよう（事前学習）
- (2) あべのタスカルで身の回りにある危険を体験しよう（当日）
- (3) 防災について考えて実践しよう（事後学習）

学習の展開

(1) 課題【災害を知って今の自分にできることを考えよう】 事前学習

- ① めあて
 - ・日本や大阪で起こっている災害を知り、災害は今起るかもしれないということがわかる。
 - ・あべのタスカルで学べること、学びたいことを考える。
- ② 展開例

学習内容	指導方法
1 日本の災害を知る。	1 全国の災害を知り、過去に大阪で起きた災害を学ぶ。
2 今できること、できないことを考える。	2 地震や津波が起きたときに、いま出来ること、出来ないことを知り、何を学習する必要があるのかを考えさせる。
3 今日が1日前だとしたら	3 今日が災害の起る1日前だとしたらどのような行動をとるかを考える。
4 防災センターについて知る。	4 防災センターについて知り、なにをする場所か理解させる。

(2) 課題 【防災センターで身の回りにある危険を体験しよう】 当日

- ① めあて
 - ・防災センターで、地震や津波などの災害を疑似体験する。
 - ・疑似体験することで、災害が起きたときに出来ることと出来ないことがわかる。
- ② 展開例

学習内容	指導方法
1 身の回りの危険を知る。	1 災害が起きた際に、どのような危険があるかを学習させる。
2 防災、減災を学ぶ。	2 被害が出ないようにする、被害を最小限にするために何が必要かを考えさせる。
3 あべのタスカルで学ぼう	3 ワークシートを活用して、学習させる。

(3) 課題 【防災について考えて実践しよう】 事後学習

- ① めあて
 - ・自分の住んでいる地域の危険を知る。
 - ・災害が起きた時のことを想像して対策を考える。
- ② 展開例

学習内容	指導方法
1 自分の住んでいる地域の危険を知る。	1 災害が起きた際に、自分の住んでいる地域にどのような危険があるかを学習させる。
2 避難を考える。	2 自宅から近い避難場所を調べて安全な経路をかんがえさせる。家族との連絡方法を考える。
3 家族ミーティング	3 班で1つの家族になり災害時に必要なもの、連絡方法、避難場所を考えさせる。
4 防災マップを作ろう	4 上記3項目をまとめた、防災新聞や防災マップを作って発表させる。

※学習教材として活用していただけるもの

